

ノリ病症名の問題点と改名について

誌名	日本水産學會誌
ISSN	00215392
著者名	小谷,祐一
発行元	日本水産學會
巻/号	75巻5号
掲載ページ	p. 916
発行年月	2009年9月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



ノリ病症名の問題点と改名について

小 谷 祐 一

独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所

Demands and problems to change the Japanese name of *Porphyra* diseases

YUICHI KOTANI

Fisheries Research Agency, Seikai National Research Institute, Nagasaki, Nagasaki 851-2213, Japan

問題点の提起と経緯

1) 平成 18 年 6 月開催の「ノリ問題研究会」において、福岡、佐賀、熊本、兵庫の 4 県から、共通の問題点として「消費者を意識した病症名の変更」が提起され、「赤ぐされ病等という病名が、消費者に与えるイメージが悪いので、病名を変更してほしい。」との生産者の要望があるとの説明があった。また、「赤ぐされ病等が多く海域で頻繁に発生するようになり、マスコミ等に取り上げられて、問い合わせも多くなっている。」との報告もあった。さらに、業界関係者からも同様に病名の再検討を求める発言があり、風評被害は深刻な問題であるとの説明があった。これらのことから、本研究会において、現在使われているノリの病症名について再検討する必要があるとの共通認識を得たが、その手続きやスケジュールを具体的に検討するには至らなかった。

2) 平成 19 年 9 月開催の「全国ノリ研究会」において、病症名の変更に関する問題点を整理するためのワーキンググループを立ち上げることが事務局から提案され、平成 20 年度に「ノリ病症名 WG」が設置された。その後、ノリ病害研究者からは、病症名の多くは発見者が命名して研究論文等で使われて定着したという点で命名者の権利と歴史的経過を尊重しなければならないとの意見や植物病理学会では学術的に検討した上で病症名を変更した実績があるとの情報提供があった。また、近年、魚類学会において「差別用語が使われている標準和名の変更」に取り組んだ事例もあることが判明した。

ノリ病症名に関する取り組み

これまで、我が国におけるノリ病症名に関する清書としては、①須藤俊造・斉藤雄之助・秋山和夫・梅林 脩

(1972)「のりの病気の種類とその病徴」、東海区水産研究所,¹⁾②日本水産学会編(1973)「のりの病気」、水産学シリーズ 2, 恒星社厚生閣(東京),²⁾③水産庁(1992)「のり病症名の統一について」³⁾がある。②は 1993 年 3 月に開催された日本水産学会春季大会におけるシンポジウム「のりの病気」をとりまとめたものであり、③はのり養殖技術問題研究会(水産庁が昭和 59 年に第 1 回を開催。ノリ養殖技術、経営・流通、生産指導、連絡体制等についての検討と意見交換の場であった。)における論議をとりまとめた冊子である。これらでは病症名についても学術面からの検討・整理が行われているが、さらに将来の調査研究に待たなければならない課題があることも指摘とされている。

本シンポジウムでは以上の問題点や経緯等を説明し、「赤ぐされ病等の病症名の改名」について、日本水産学会や植物病理学会等における取り扱いを提案した。しかしながら、シンポジウム参加者からは病症名の検討が必要であるとの賛意とともに慎重な対応を求める声もあり、さらに研究レビューやアンケート調査等を行って問題点を整理するとともに、具体的な対応方針を提起する必要があると思われた。なお、本件の取り扱いについては、業界団体とも相談しつつ、慎重に対応することが重要であると認識している。

文 献

- 1) 須藤俊造, 斉藤雄之助, 秋山和夫, 梅林 脩. 「のりの病気の種類とその病徴」東海区水産研究所. 1972.
- 2) 日本水産学会. 「のりの病気—水産学シリーズ 2」恒星社厚生閣, 東京. 1973.
- 3) 水産庁「のり病症名の統一について」. 1992.